

■ 学校の共通目標

【HP公開用・様式1】

授業作り	重 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレット端末を活用し、個別最適化を推進する授業づくり。</li> <li>・児童の実態に応じた教材づくり。</li> <li>・見通しをもって、粘り強く取り組む学習過程の工夫。</li> </ul>
環境作り		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習・生活の規律の徹底。</li> <li>・学びのユニバーサルデザインを生かした授業づくり。</li> </ul>

■ 学年の取組について

学 年	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子から)	目標達成のための取組
1 学 年		<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを教師や友達に積極的に伝えようとする児童が多い。</li> <li>・話の内容を落とさず、最後まで聞く力をつける必要がある。</li> <li>・ひらがな、かたかな、漢字を正しく書くことができるよう、繰り返し練習する必要がある。</li> <li>・5、10など数の構成を理解し、計算できる力を付ける必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①机間指導や個別の声掛けを毎時間実施する。</li> <li>②タブレット端末、デジタルドリルを活用する。</li> <li>③ノートの活用を進め、きめ細やかなノート指導を行う。</li> <li>④具体物の操作を取り入れた学習を推進する。</li> <li>⑤読書を奨励する。</li> </ul>
2 学 年		<ul style="list-style-type: none"> <li>・手を挙げて発言する児童が多く、授業に意欲的に参加している。家庭学習の定着が必要である。</li> <li>・ひらがな、かたかな、漢字を正しく書くことができるよう、繰り返し練習することが必要である。また、拗音、促音などを正しく使うことができるよう、書いたり、読んだりする活動が必要である。</li> <li>・正確に計算する力を身に付けるとともに、文章問題への取組への力を付ける必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①机間指導や個別の声掛けを毎時間実施する。</li> <li>②タブレット端末、デジタルドリルを活用する。</li> <li>③漢字小テストを実施する。</li> <li>④ノートの活用を進め、きめ細やかなノート指導を行う。</li> <li>⑤具体物の操作を取り入れた学習を推進する。</li> <li>⑥読書を奨励する。</li> </ul>
3 学 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字の正しい筆順の理解や、正しく書く力を身に付ける必要がある。</li> <li>・算数では、図形や単位換算を苦手とする児童が多い。また、見直しをせずケアレスミスをすることがあり、正確さに欠ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手を挙げて発言する児童は多いが発言内容がまとまらずに話す児童が多い。各教科で自分の考えや学習感想など、書く時間を多く設定していくことが必要である。</li> <li>・計算問題は積極的に取り組む児童が多い。見直しすることを習慣化させる。</li> <li>・家庭学習の提出状況に課題がある。学習を習慣化させる必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①机間指導や個別の声掛けを毎時間実施する。</li> <li>②漢字小テストを実施する。</li> <li>③計算ドリル・ドリルパークを活用する。</li> <li>④毎時間自分の考えを記述する。</li> </ul>

4 学 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉の知識を増やしたり、漢字を正しく書く力を身に付けたりすることが必要である。</li> <li>・書く領域の未解答児童が多いため、自分の考えを表現する力を身に付けることが必要である。</li> <li>・既習事項を活用する力の向上が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手を挙げて発言する児童は多い。学習意欲を継続して高めていく。</li> <li>・家庭学習の提出状況には課題がある。学習を習慣化させる必要がある。</li> <li>・自分の考えや思いを表現することが苦手である。話したり書いたりする機会を設け、表現力を身に付ける必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①デジタルドリルを活用する。</li> <li>②漢字小テストを毎週実施する。</li> <li>③毎時間自分の考えを記述する。</li> <li>④毎時間学習した内容を自分の言葉でまとめる。</li> <li>⑤基礎的な計算に毎日取り組む。</li> <li>⑥既習事項と単元とのつながりを意識した授業を展開していく。</li> <li>⑦友達の考えをモデル化する。</li> </ul>
5 学 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語では基礎知識に差があり、漢字の読み書きや文章読解に課題が見られる。</li> <li>・算数では基礎的な計算や文章問題に課題が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習意欲はあるが、理解力に課題のある児童が多いため、授業の中での机間指導やノート提出等を通して児童を見取る必要がある。</li> <li>・家庭学習やドリルパークを活用することで、定期的に学習を振り返る機会を設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①机間指導や個別の声掛けを毎時間実施する。</li> <li>②ドリルパークを活用する。</li> <li>③漢字ミニテストを毎時間実施する。</li> <li>④単元ごとの振り返りの言語化を図る。</li> </ul>
6 学 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語では、漢字の書き取りは比較できるが、語彙力不足により習った漢字を正しく使えないことが多い。</li> <li>・算数では、文章問題の立式を苦手とする児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語の学習だけでなく、各教科で自分の考えや学習感想など、書く時間を多く設定していくことが必要である。</li> <li>・算数は、家庭学習やドリルパークを活用して6年生の学習内容だけでなく、小学校でのすべての学習内容を復習していく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①机間指導や個別の声掛けを毎時間実施する。</li> <li>②漢字小テストを毎週実施する。</li> <li>③計算ドリル・ドリルパークを活用する。</li> <li>④作文を書く習慣を図り、振り返りを行う。</li> </ul>
特 別 支 援			

期末評価	
○ 成果と▽ 課題	● 次年度への方策等
<p><b>【第1学年】</b></p> <p>○自分の考えに理由を付けて積極的に伝えることができるようになった。</p> <p>▽促音、拗音、カタカナ、漢字を正しく書くことが難しい。</p> <p>○5, 10などのまとまりの簡単な計算をすることができるようになった。</p> <p>▽文章を読んで場面を理解し、立式することが難しい。</p>	<p>●文章を書いて読む学習を積極的に取り入れたり、読書を奨励したりして、日常的に字に触れる機会を設ける。</p> <p>●具体物を操作したり、図を用いたりして、具体的に場面を想起できるようにしていく。</p>
<p><b>【第2学年】</b></p> <p>○音読や読書の習慣が付き、文を読んだり書いたりする力が付いてきた。意欲的に学習することができた。</p> <p>▽繰り返し練習してきたが、拗音、促音、漢字を正しく書くことがまだ難しい。</p> <p>▽たし算やひき算は正確に計算する力が付いてきた。かけ算についてはまだ十分ではない児童もいる。</p>	<p>●今後も音読や読書を奨励し、読んだり書いたりする力を伸ばしていく。</p> <p>●タブレット端末やデジタルドリルを活用して、漢字や計算の復習に繰り返し取り組む。</p>
<p><b>【第3学年】</b></p> <p>○すすんで読書をする児童が多く、国語の区学力定着度調査の基礎では、区平均より高くD層が減り、A層が増えた。</p> <p>▽算数の区学力定着度調査では、D層が多く正答率50%未満の児童が3割以上いる。図形や2桁の掛け算などに課題が見られる。</p>	<p>●読書を引き続き奨励するとともに、タブレット学習などを通じ語彙力を増やす。</p> <p>●家庭学習の習慣を身に付けさせ、算数の四則計算や図形の復習を、宿題やタブレットなどを通じて行う。</p>
<p><b>【第4学年】</b></p> <p>○自分の考えを書く児童が増え、区学力定着度調査では書く領域での無解答率が32%から10%に減った。</p> <p>▽漢字の書き取りの正答率が低い。</p> <p>○算数で自分の考えをノートに書いたり説明したりすることで、表現力が高まった。</p> <p>▽算数の区学力定着度調査では、正答率の二極化が見られた。</p>	<p>●新出漢字の読み書きや既習漢字を使って文章を書くなど、日常的に漢字の指導を行う。</p> <p>●日常的に基礎的な計算に取り組んだり、個々のつまずきを把握すると同時に、デジタルドリルを活用しながら苦手な単元の補充学習を行ったりする。</p>

<p><b>【第5学年】</b></p> <p>○国語の漢字については読み書きのできる児童が増えたが、一部の児童はまだ定着していない。</p> <p>▽自分の意見を書く問題に課題があり、自分の考えを表現することに時間のかかる児童が多い。</p> <p>○算数の基礎基本に苦手意識を感じている児童が昨年度よりも4%減った。</p> <p>▽苦手意識を感じている児童が一部おり、4年生の学習段階の基礎も身に付いていない状況にある。</p>	<p>●国語の文章読解や、各教科で自分の考えを書かせることなどを通して、文章を正しく書く機会を設ける必要がある。</p> <p>●算数の基礎基本を定着させるために、デジタルドリルを活用して苦手意識を感じている単元などに取り組みさせる必要がある。</p>
<p><b>【第6学年】</b></p> <p>○漢字・計算の基礎学力はしっかりと定着している。算数は特に学力調査でも全国平均を超える児童が多い。</p> <p>▽学力調査では、読み・書く問題に課題があった。読書の量にかなり差があり、習慣化していない児童の読むスピードがかなり遅いため、長文問題の読解に時間がかかる。</p>	<p>●国語の家庭学習は、漢字の学習がほとんどであるため、読み取りの問題を解く機会が少ない。ドリルパークも国語の問題は少ないので、プリントなどを活用して読む練習をする機会を増やすとよい。</p>